

ニュースがわかる、福音が見える

クリスチャン新聞

THE CHRISTIAN

2023 12/3

編集部 [e-mail] cs-edit@wlpn.or.jp [tel] 03-5341-6957 [fax] 03-5341-6921
購読課 [e-mail] cs-read@wlpn.or.jp [tel] 03-5623-7925 [fax] 03-5623-7926
発行 一いのかのことは社 ①クリスチャン新聞 〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5
2023年12月3日発行 (毎週日曜日発行) 通巻第2691号 (1960年12月10日第3種郵便物認可)



パレスチナ戦争と「正戦論」
正当化とその弱点とは6
震災支援から誕生 石巻オアシス教会10周年...2
クリスチャン進路選択「uniTed」団体30以上...2
「助けて」で自分も教会も地域も守れる 関ヶ原...3
台湾・中国・米国「非暴力」祈り続けられるか...7

ひきこもりの居場所「ふらっと」10周年記念フォーラム

発達特性理解し工夫を共有

NPO法人光希(ひきこもり)屋家が運営する、ひきこもりや不登校の人たちが安心して集える居場所「ふらっとカフェ」(以下「ふらっと」)は、秋田県大仙市大曲須和町が10周年を迎えた。光希屋(家)は11月14日、記念イベントとしてフォーラム「発達特性と職場の適応、その工夫」を、大曲須和町のごぶし児童館で開催した。(11月19日号で関連記事)【中田 朗】

「ふらっと」は、光希屋(家)代表でマレーシア人のロザリン・ジョンソン(ルン)と、大曲ルン・同胞教会(役員)の発案で、2013年9月23日にオープンした。

「ふらっと」は、枯れ果てて、強く生きたいと願った日もあり、今時が止まればいいと一人つぶやいた日もある。悩みながら過ぎてきたと、ひきこもりだった頃の心情を歌い上げた。

「ふらっと」の働きを支援してきた4

「ふらっと」の働きを支援してきた4

「ふらっと」の働きを支援してきた4

「ふらっと」の働きを支援してきた4

「ふらっと」の働きを支援してきた4

「ふらっと」は、光希屋(家)代表でマレーシア人のロザリン・ジョンソン(ルン)と、大曲ルン・同胞教会(役員)の発案で、2013年9月23日にオープンした。当日は、午前10時から開始。午前中はパステルアート、プラモデル作り、展覧会など、利用者による自由活動があり、午後1時からは、藤井淳一さんによる「はなうたミニライブ」が開かれた。藤井さんは「ふらっと」創設当時の利用者で、現在はピアスタッフ(かつてひきこもりの当事者だった支援者)も務める。ライブでは、オリジナル曲を中心に披露。「ボクノウタ」では、作詞を担当したピアスタッフの柳原優さんとコラボし、「泣いて涙が



当事者を交えての座談会



ふらっと利用者によるコラージュ



パステルアート、プラモデルづくりの活動が行われた

「発達特性は、知能とは全く関係がない。コミュニケーションの形が違うだけで、できないのではない。大切なことは、自分の発達特性についてどれだけ理解しているかだ。また、自分の可能性にチャレンジしていくという考えのほうがいい。発達特性の強い人は、こだわり、不安が強く、割り切りと絞り込みが苦手。失敗した時のことを考えやすい。ゼロか百かだけでなく、30も50もあると考えると落ちつける」とアドバイスした。

■定期予約購読料・1部(税込、前払い)
紙代 送料 合計
● 3か月... 2,820円+ 504円= 3,324円
● 6か月... 5,640円+ 1,008円= 6,648円
● 12か月... 11,280円+ 2,016円= 13,296円
■電子版1か月794円(紙版と併読1,303円)
※お申し込み・お問い合わせは
タイトル部分に記載の購読課まで